

第69回日本病理学会 秋期特別総会（久留米）モーニングセッションのご案内

（日本病理学会 国際交流委員会主催）

病理医としてのアドバンテージを体感しよう –海外における病理医活動の紹介–

日時と場所 2023年11月10日(金) 8:00-8:50 久留米シティプラザ (大会議室)

現地開催のみで、オンデマンド配信は行いません。



とっても美味しい
朝食とコーヒー付き

演者の先生方からの一言メッセージ

• 大阪公立大学大学院医学研究科 分子病理学 鈴木 周五 先生

- 「百聞は一見にしかず」、海外留学に迷っている先生に贈りたい言葉です。海外留学では、仕事内容が変わるとともに、会話言語や風習、文化も異なる世界が広がっています。ちょうど自分自身の仕事や研究などを見直す時期にかかっている状況で、異なる立場になった見た自分を見つめて、次のステップに挑戦ください。

• 信州大学 医学部附属病院 臨床検査部 岩谷 舞 先生

- 共働き（私：消化管病理医、夫：消化管内視鏡治療医）・子連れ（小学1年生 & 幼稚園年少）でチャレンジした臨床留学（トロント大学）について。アメリカとシステムの違うカナダ（オンタリオ州）の主に臨床留学についてお話し出来ればと思います。苦労もありましたが、我が家は留学して良かったです。

• 京都大学医学部附属病院 病理診断科 寺本祐記 先生

- 留学してみたいと思ったら、まず周りの人に相談してみましょう。人のつながりは想像しがたく、また貴重なものです。私もそういうありがたい縁で留学することができました。途中で脳内出血のため入院するといったハプニングもありましたが、米国の医療関係者や同僚の助けもあり、今でも楽しく病理医生活を続けられています。

• 国際医療福祉大学医学部 成田病院 病理診断科 小無田美菜 先生

- 非英語圏（ベルギー）で、12年間 病理診断・研究・教育を行ってきました。ヨーロッパ特有の多民族・多言語環境下での生活と仕事は、大変な事も多かったですが、海外活動における病理医のアドバンテージを体感し、自分の専門性をのばし、日本ではできない経験を積めた事は、今も私の人生を豊かなものにしていきます。